

<課題研究(I)>

生涯教育推進のシステム

——これからの社会教育についての一考察——

横 沢 厚 彦

(財団法人北海道青少年育成協会)

はじめに

生涯教育推進のシステム化については、既に多くの研究者や実践者によって、その考え方が出されているが、その立場によって主張の視点が微妙に異なるのも一つの特色であろう。

私は、いわゆる「生涯教育推進のシステム」ではなく「生涯教育の観点に立った社会教育推進のシステム」について触れてみたい。

さて、社会教育の推進についても、従来多くの提言があり、単なる理論ではなく市町村における実践がそれを立証したという、いわゆる実証的理論として認められているものも多い。

しかし、これらの中には社会教育の振興を促す要素として指摘しながら、理論のレベルにとどまっているものもあるように思われる。

これから触れる事柄についても、特別目新しいことを言おうとしているのではなく、社会教育の振興ということについて生涯教育の観点からとらえなおしてみようという現場的発想に過ぎないのである。

1 生涯教育の観点に立った社会教育振興のための要素

社会教育の振興については、それを実現する上での要素といったものはいくつか考えられる。

つまり、それらの要素のいろいろな働きと組み合わせが、結果として社会教育の充実・振興という成果を生み出すのである。したがって、その要素の一つ一つについて、その働き（役割）とそれらの要素が、どのような形で有機的に連携することが望ましいかといったことについて明らかにすることが、極めて大切である。

生涯教育の観点に立った社会教育の振興を具現化する要素として考えられるものを挙げてみよう。

- (1) 生涯学習の必要性を自覚した学習者
- (2) 社会教育行政の役割である開かれた学習機会の提供機能と自発的学習活動を援助する機能
- (3) インフォメーションセンターとしての機能と学習機会の提供及び援助機能をもつ社会教育施設
- (4) 学校教育と社会教育の連携
- (5) リカレント教育後の学習者対策の確立
- (6) 生涯教育推進組織の編成と活動の展開

2 各要素を具体化する視点

（一）生涯学習の必要性を自覚した学習者の育成

生涯教育では、生涯通じて学習を継続しようと自覚した学習者が大事な要素の一つとなる。

したがって、地域における不特定多数の人々に対し、生涯にわたって学習を継続することの必要性和積極的に学習しようとする意欲を育てることが重要である。

本来、地域の人々は、日常生活と職場の生活の体験の中から、新しく学習しようとするものを発見し、これについての具体的な学習によって日常生活や職場の生活の充実と向上を図る、といったことの繰返しを行うことが、のぞましいわけだが、必ずしもそのような形にはなっていない。

とかく、我々の生活は習慣と情性の連続であると言われている。このような生活態度の中では、仮に問題を自覚しても、あきらめや妥協の意識が、問題を生活の中に埋没させてしまい、再び、問題を抱えての生活が余儀なくされるといったケースが多い。

これでは、いつまでたっても、生活の向上、安定はのぞまれない。

したがって、生涯学習が必要であることと、学習機会が常に自分たちの周辺に用意されていることの実情について知らせることが重要である。また、単に知らせるだけではなく、このことと合わせて、学習への意欲を触発させる機能が伴っていなければならない。そのためには、次のような条件を整えることが望まれる。

(1) 学習情報提供の仕組みの確立（データベースの整備と活用）

従来の社会教育は、集合形式による学習形態と団体活動によるものが、いわば中心であった。

それはまた、学習者のほとんどが、かかわった社会教育活動であった。それらの人々の中には、「学習機会」に参加しながらも、主体的に学習をすすめる人々もみられたが、多くは受身の学習活動に終始しているという状況であった。

生涯学習という観点に立てば、これからは、集合形式による学習機会も、主体的な参加でなければならないと同時に、個人学習の拡充が飛躍的に求められてくるのである。

したがって、学習情報の提供ということが、大きな当面する課題である。

つまり、データバンクの整備と活用ということである。

このデータバンクは、地域におけるあらゆる人々に対し、

ア 学習機会（学級・講座・教室・通信教育など）に関する情報の収集と提供

イ 学習内容（学級・講座・教室などの学習課題や通信教育の種類及びマスメディアなどについての紹介など）に関する情報の収集と提供

ウ 個人学習やグループ学習者に対する指導者や学習資料（統計資料、文献、実践事例など）の紹介や提供

エ 各種学習施設（公的施設や民間施設）の紹介と施設を行う学習活動についての情報提供

オ 地域で活動している各種団体についての情報提供（サークルや団体の名称、目的、活動内容、事務所、代表者、連絡方法など）

カ 学習に関する相談事業（学習形態、内容、方法、指導者、学習グループのつくり方、運営の仕方など）の実施

こうした内容をもつデータバンクの活動こそ、社会教育振興上の重要な要素の一つである。

（２）学習必要の顕在化を図る指導体制の確立

人々のもつ学習必要（個人または集団が学習する必要のある事柄）は、本来、潜在的なものである。これらの事柄は、日常生活の面にも、職場の生活の面でも、社会人としての生活の分野にも広く存在している。

しかし、それらの事柄は、人々が「学習する必要性」を自覚し、いわゆる「学習要求」として持ち出さない限り、普通は現象的には潜在しているのである。

この潜在している学習必要を顕在化する（これを「学習要求」と呼ぶ。）ことが、これからの社会教育にとって重要である。

主体的な個人学習やグループ学習の前提は、学習者自身が具体的な「学習要求」をもっていることである。

そのためには、地域の人々が抱えている多様な、そして多岐にわたる「学

習必要」を調査やその他の方法によって顕在化し、具体的な学習目標に向かって主体的に学習を進める、いわゆる学習の必要を自覚した学習者を育てるような指導体制の確立がのぞまれる。

(二) 社会教育行政の役割である開かれた学習機会の提供機能と自発的学習活動を援助する機能

(1) 学習要求に対応する学習機会の提供

社会教育行政が計画する学習機会提供事業は、「いかなる層」の「いかなる需要」に対し、「いかなる供給」をしたらよいかという計画であるから「需要」の存在について、明確に把握しなければならない。

この場合「学習内容」（なにを）と関連して「学習理由」（なぜ）を知ることが重要である。

ある公民館で学習要求の調査をした時、「かぎ針によるテーブルセンターをつくりたい」と言う要求に対し、その理由は「友人が少ないので、そこで友達をつくりたい」「高度の技術を身につけたい」「多くの人と話し合いたい」など多様であった。

この学習の理由を配慮しない学習計画が、もし立てられたとしたら、実施の過程で学習者が脱落していくであろう。

したがって、多くの人々が進んで参加する学習機会提供事業を計画するには前記の事柄について十分留意をすることが必要である。

(2) 発達課題と学習活動

生涯学習の基幹的学習課題は発達課題である。ライフサイクルにみる多様な立場と、それに伴う役割を確実に果たしていくためには、発達課題に対する学習活動は欠くことのできないものである。

家庭教育、学校教育、社会教育の連携と学習課題の分担によって、継続的に学習活動が展開されるように配慮されなければならない。

(3) 自発的学習活動に対する学習機会援助

① 学習集団づくり

集合形式の学習活動の充実強化に加えて、住民の自発的学習活動の展開は生涯教育実践上の課題である。

したがって、地域社会の中に、具体的な学習目標をもつ各種の学習集団を育てるということは、社会教育行政の今日的な課題である。

町内会や自治会の研修部門と連携をとりながら、学習集団をつくり、その主体的な学習活動を援助するため、社会教育行政は、データバンクによる協力、援助のほかにテレフォンサービスによる対応も考えてみる必要がある。

② テレフォンサービス

集める社会教育から届ける社会教育の一つの活動形式である。

ある農村の教育委員会では、従来集合形式で実施してきた家庭教育学級が、特定少数の、しかも非農家主体の学習者に傾斜していることを反省し、試みとして「家庭教育」に関する録音教材を50本用意し、それぞれのテープの「テーマ」と概要を紹介する資料を全戸に配布して電話による利用を呼びかけたところ、従来、社会教育の諸事業に出席したことのない多くの人々からの利用が相次ぎ、現在300本のテープを保有し、盛んに活用されているという状況である。

この方法は決して新しい方法ではない。しかし、社会教育事業のもち方が、集めるという手法に、こう着化している現状を考える時、さらに普及発展させることが必要であろう。

(4) 民間における学習機会提供事業の活用

今日程、民間の団体、特に諸企業が多岐にわたって学習機会を提供している時代はない。しかも、公的機関が提供している内容とは、およそ観点の異なるユニークな内容のものが多い。

こうした情報をデータバンクは完全に収集し、学習者に対して適切に提供することが、学習者の学習機会の拡大に結びつくものである。

以上のように「いつでも、どこでも、だれでも」が学習できる体制の整備や的確な学習要求の把握、学習機会の提供と援助、そして学習情報の周知といったことが、開かれた学習機会の実現と多岐にわたる生涯学習の展開に結

びつくものと考えられる。

(三) インフォメーションセンターとしての機能と学習機会の提供及び援助機能をもつ社会教育施設

今日社会教育施設の一般的傾向としてみられる状況は、

- ① 施設利用者は老若男女の各層にわたっており、自発的に足を運んでいる人々である。
- ② 回を重ねて施設を利用している人々や宿泊して利用している人々の間に、共通の学習課題に結ばれた社会的連帯意識が育ってきている。
- ③ 各種の課題の解決に結びつく学習機会が提供され、その結果、地域文化や生活文化の向上に役立っている。
- ④ 施設のもつ教育機能（指導者、教材・教具、展示物、図書など）に触発されて学習意欲が喚起され、これが幅広い学習活動に発展していつている。

といったことがみられる。情報の提供、学習意欲の喚起、学習課題への対応、そして自発的学習に対する協力・援助は、生涯教育の観点からみて、これからさらに求められる社会教育施設への期待であり、要請である。

(四) 学校教育と社会教育の連携

学校教育と社会教育は車の両輪であると言われて久しい。

現実には、この車の輪の大きさが、その輪を構成する諸条件の違いから同等ではない。

しかし、生涯教育の観点に立って考えたとき、この両者の連携を具体化する努力が必要であり、当面する緊急の課題である。

学校教育と社会教育の相互提携と学・社の相互乗り入れの考え方が出現したその理由について、林部一二氏は次のように述べている。

- ① 学校教育の限界の認識
- ② 学校教育の開放への要請

③ 学校教育における地域性の配慮

である。

特に、この主張のうち「学校教育の開放への要請」は、学校の現代社会への開放、特に大学を「社会に開かれた大学」にすべきであるという主張を中心として展開されるようになったと林部一二氏は重ねて述べている。

ア 大学におけるリカレント教育制度の確立

生涯教育におけるリカレント教育は、学校の性格をかえるものであり、役割の拡大に通ずるものである。

学校が人生前期の青少年の教育機関としての役割にとどまっているのではなく、学校を卒業した人々が、仕事の上で、あるいは人生を送る上で、さらに学習の必要を感じたなら、こうした人々を再度受け入れて、より高い知識や、より高い専門的技術・技能を習得する機会を与えるということは望ましいことである。

しかし、今日、国公立大学において社会人入学という形で制度化しているものはなく、私立の大学に、リカレント教育の姿をみるだけである。

できるだけ早期に、国公立大学においても実施されるよう、その制度化を急ぐべきである。

イ 大学開放、学校開放事業の推進

リカレント教育の趣旨が、社会人に対して、より専門的な知識や技術の習得というところにあるとすれば、その趣旨を拡大した活動の中に、大学開放や学校開放の活動がある。

大学のもっている知的・道徳的及び応用的能力や高等学校のもっている専門性を一般に開放しようということである。

つまり、学校には本来、人的組織と物的施設設備と、この二つの条件を組み合わせて行われる教育の機能がある。これを社会的に利用することである。

この大学開放、学校開放の事業が、社会的要請、時代的要請に加えて地域の人々の学習要求に基づいて開設され、多くの人々がこれによって学ぼう

になることを期待したい。

(五) リカレント教育後の学習者対策の確立

生涯教育の観点に立って、これからの教育を考えると、リカレント教育の発想はユニークであるばかりでなく、本来の学校教育制度を大きく変えるものとして特色がある。

さて、リカレント教育の一環として社会人入学が許され、職場を離れて切角、より高度の知識や技能を大学で身につけても、受け入れられる職場を失っていたのでは、この制度は意味がない。

したがって、この制度については、受け入れる大学だけが考えるのではなく、学習者を送り出す側においても、リカレント教育に対する正しい理解と、学習後の受入れについても、それを保証する制度が確立されていなければならない。

(六) 生涯教育推進組織の編成と活動の展開

(1) 北海道における生涯教育推進体制図

北海道生涯教育推進会議が、昭和57年7月に設置されて以来、北海道における生涯教育の推進方策について審議を重ねてきた。

その3ヶ年にわたる審議内容を集約し、本道における生涯教育の総合的推進方策をとりまとめた「学習社会の実現を目指して」を発行した。

図1は、その中に掲載された推進体制図である。

(2) 生涯教育の観点に立った社会教育推進図

生涯教育の観点に立った社会教育推進ということで、いくつかの要素を挙げ、その要素を具体化する視点に触れたが、図2は、それらの関連を考えた推進の仕組みについての説明である。

図1 北海道における生涯教育推進体制図

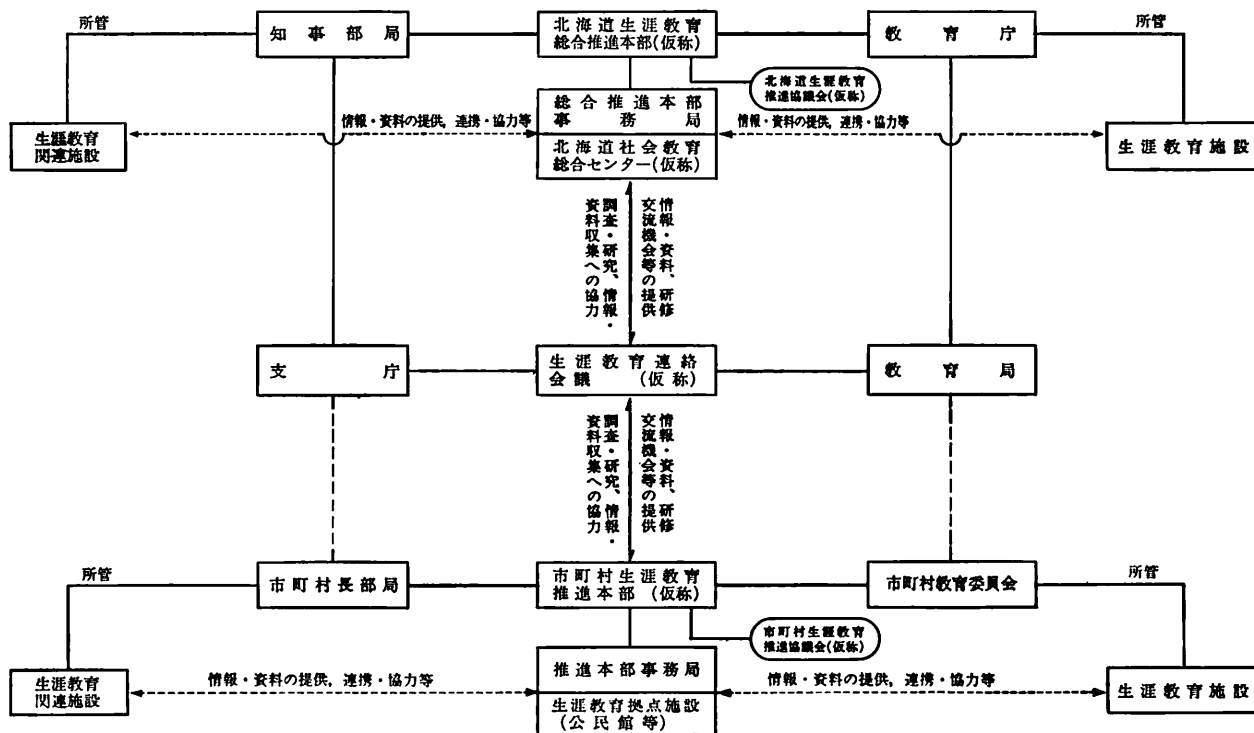


図2 生涯教育の観点に立った社会教育推進図

